

令和3年度 林務部の当初予算要求のポイント



しあわせ信州創造プラン2.0で掲げる、2022年 素材生産量80万m³の目標の達成を目指し、施策を総動員して取り組みます。（県内素材生産量：56.4万m³（2019年））

I 素材生産量の増加と県産材需要の拡大 R3:206,950千円 (R2:112,253千円)

【目指す姿】

- A材（良質材）からC材（低質材）まで、**バランス良く県産材の需要があり、伐って・使って・植え・育てる「林業のサイクル」により森林資源の循環利用が進み、素材生産量が増加**

信州の森林づくり事業（再造林支援分） 48,600千円（48,600千円）

林業事業者等が実施する再造林に対し補助率を高め、**主伐・再造林を促進**

- ④ **森林病虫害被害枯損木利活用事業** 100,000千円（18,000千円）
病虫害被害による枯損木を発電用の燃料等として利活用する取組を支援し、**低質材の利活用を促進**

- ⑤ **林業労働力活用促進対策事業** 2,000千円（－）
林業従事者の地域ごとの過不足に対するマッチングや条件整備の代行の実施により、**県内の林業労働力の有効活用を推進し、素材生産量の増加を図る**

- ⑥ **地産地消による木の香る暮らしづくり事業**
(木づかい空間整備事業) 49,350千円（40,800千円）
オフィスや店舗等におけるモデル的な内装木質化の整備を支援し、**県民の身の回りに当たり前に木がある暮らしを実現**

- ⑦ **県産材活用加速化推進事業**
(JAS製材品供給拡大支援) 3,500千円（2,353千円）
(県産材製品コデインター配置事業) 3,500千円（2,500千円）
都市圏を中心とした**非住宅分野への県産材需要の拡大***

※このほか、建設部では県産材を活用した個人住宅への助成金を、環境部では県産材を活用した施設整備（霧ヶ峰自然保護センター、御嶽山ビジターセンター）をそれぞれ予算要求

II 低コストなどによる主伐・再造林（更新）の推進 R3:75,500千円 (R2:18,100千円)

【目指す姿】

- 森林整備に係る**施業情報がデジタル化**されるとともに、必要な技術や機器が行政や事業者でフル活用され、施工管理に係る**コストが低減**
- 再造林を進める上で被害対策がコスト増の要因となっている**二ホンジカの効果的な捕獲・高密度生息域の解消**により、主伐・再造林が増加

- ⑧ **スマート林業構築普及事業** 15,500千円（18,100千円）
ICTを活用して林業の低コスト化を図る事業者を支援

- ⑨ **森林施業マップ整備事業** 5,000千円（－）
森林施業の履歴を一元的に確認できる**森林施業マップの基となるデータをデジタル化**

- ⑩ **持続型捕獲モデル実証事業** 55,000千円（－）
デジタル技術を活用して再造林の支障となる二ホンジカの捕獲を推進し、その後のジビエ利用を含めたモデル的な取組を支援

III 多様な林業の担い手確保・育成 R3:24,227千円 (R2:22,267千円)

【目指す姿】

- 都市圏からのIターンを含め県内外から**林業への新規就業者が増え**、県内の林業就業者が増加、**多様な担い手による森林整備が実施される**

- ⑪ **森林整備担い手育成確保総合対策事業** 8,341千円（6,994千円）
若者や他分野から**林業分野への参入者を対象に**、林業就業定着に必要な知識・技術の**研修等を実施（Jobサポとの連携）**

- ⑫ **持続的な林業経営の確立支援事業** 15,886千円（15,273千円）
リモート研修体制の環境整備等により**林業事業者の育成を推進**